

第2分科会「子供の発達に関する課題」

(報告者) 鹿足郡教頭会所属

○発表の概要 (大会資料 P30～33 参照)

【提言1】 確かな学力の定着と心豊かな人間性の育成に係る教頭の関わり

—授業改善や学習習慣の改善、学校間や地域・家庭との連携協働をとおして—

提言者：北海道根室管内教頭会

[研究のねらい]

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- (2) 学校間の連携・一貫及び学校・家庭・地域の連携協働

[グループ協議及び全体での共有 (一部)]

- ・若手教員の授業力を高めることが必要であろう。ベテラン教員が教えていくことができるシステムづくり、つなぎ役になることが教頭の役割となる。その際、若手教員が得意としている ICT 活用をベテラン教員が学んでいくといった人材育成も期待できる。

[指導助言] 直島町立直島中学校 校長、高知県教育委員会 課長

- ・地域の現状をポジティブにとらえていたり、様々な課題を現状把握して分析し、ねらいを焦点化したりしているところがよい。
- ・OJT を活用したミドルリーダーの育成、取り組み後の評価を次の方向性にしていくことは大切なことである。
- ・個別最適な学びが求められているが、学校内の教員だけではできることが限られている。そこで外部専門家の力を借りることが必要である。教頭はそのコーディネートを行っていく。
- ・子どもの声は、授業改善の視点を見つける手掛かりとなる。
- ・確かな学力と生徒指導の一体化を目指していかなければならない。(授業の中に生徒指導の視点をもつこと)

【提言2】 自己肯定感を育てる教育活動の推進と教頭の役割 —生徒会・児童会連携を通して—

提言者：愛媛県宇和島市教頭会

[研究のねらい]

児童会と生徒会や市内生徒会が交流・協働する体制を整え、継続した取組とするための予算を確保したり、担当者の育成を図ったりすることで、児童・生徒の自己肯定感を向上する。

[グループ協議及び全体での共有 (一部)]

- ・子どもの自己肯定感を育てるためには、教員の自己肯定感を高めることが必要である。子どもの成長した姿を話題にし教員を認める言葉かけをすることが教頭の役割としてできるのではないだろうか。そのためにも教頭は日頃から授業の様子を知っておく必要がある。

[指導助言] 直島町立直島中学校 校長、高知県教育委員会 課長

- ・教頭がマネジメントを行っている取り組みである。
- ・「ありがとう」と言われる機会が増えたと話した子どもがいたが、それを学校内でも学校外でも増やしていくべきである。学級活動は大切である。
- ・自己肯定感を高めるためには、他者との協働、自分の役割を果たす、それを評価された成功体験が必要である。
- ・一人一人に応じた褒め方(やっていること・できていることを褒める)が大切である。

発表の概要

【主題】「確かな学力の定着と心豊かな人間性の育成に係る教頭の関わり」

－授業改善や学習習慣の改善、学校間や地域・家庭との連携協働を通して－

【提言者】北海道根室管内教頭会

1. 主題設定理由

○全国学力・学習状況調査において、小・中ともに国語及び算数（数学）の平均正答率が全国平均を下回る状況により、児童生徒の学力向上、教職員の授業改善が喫緊の課題となっていること。また、義務教育9年間を見通した教育課程を編成できるなどの強みがあること。

2. 研究のねらい

(1) 『主體的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善

(2) 「学校間の連携・一貫及び学校・家庭・地域の連携協働」

3. 研究の概要

(1) ①各種調査結果等を活用した授業改善の取組

②授業づくりや言語活動の充実に係る授業力向上研修の実施

③日常の授業と家庭学習を繋げる取組

(2) ①キャリア教育の視点からの小中連携・一貫の取組

②家庭・地域を巻き込んだふるさと教育の充実

4. 研究の成果と今後の課題

○成果としては、短い周期で検証改善を行ったり、教職員の研修を実施したりすることで、授業改善が進み、学力向上につながった。また、コミュニティ・スクール等と連携し、地域や家庭を巻き込んだキャリア教育やふるさと教育の充実を図ったことで、児童の学習意欲が高まり、心豊かな人間性の醸成に資することができた。

課題としては、より児童生徒の実態に応じた適切な対応策を練る必要があった。また、取組が一部の地域の取組であり、全管内への波及が見られなかった。

協議・指導助言

○教職員チームでできること、専門家チームでできることを把握し教頭はつなぐ役目を行う。

○確かな学力の定着を図るうえで学習と生徒指導の一体化が大切である。授業の中に生徒指導の視点を取り入れ、子どもの自己指導能力を育成していく。子どもの声を聴きながらPDCAサイクルを回し、子ども主体の取組に転換していく。

○学校間や学校・家庭・地域をつなぐ教頭の役割について、地域連携のポイントは、全教職員の意識改革が必要である。校内外での「つなぐ」「まとめる」役割を担うとともに、教員のやる気を引き出す関係性の構築が大切である。地域連携の「組織づくり」のポイントは、既存組織の活用と人的資源の把握である。学校と保護者、地域、関係機関とを「つなぐ」ことで相互がウィンウィンとなる教頭のマネジメント能力が必要となる。